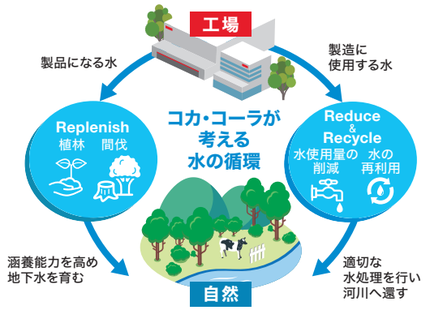
北海道の豊かで貴重な水資源を、未来へ

水資源保護活動の推進

人間をはじめとした全ての命の営みの根源にある水資源。その持続的な活用を図りながら、次世代の北海道のためにできることを推進しております。製品に使用した量と同等の水を自然に還元する取り組みもそのひとつです。指針は、3つの「R」。製造過程の水使用量を削減する「リデュース(Reduce)」。使う水を循環させる「リサイクル(Recycle)」。そして地域の水源涵養「リプレニッシュ（Replenish)」です。



札幌工場の水源涵養率 300%以上

白旗山での森づくり
植樹累計 約4,550本
協定面積 約1,063ha

Reduce

エレクトロン・ビーム殺菌

札幌工場のPETボトル製品の製造ラインではエレクトロン・ビーム(電子線)による殺菌を行い、従来の殺菌に比べて水の使用量を大幅に減らしています。

Recycle

ラグーン処理方式

札幌工場の排水処理には、微生物の自己浄化サイクルを活性化させて余剰汚泥の発生量を抑える「ラグーン処理方式」を採用。国の排水基準を上回る自社基準を設けています。

Replenish

水源域での森づくり活動

札幌工場が使う地下水の水源は、清田区の白旗山にあります。そのため札幌市と結んだ「環境事業に関する協定」に基づき、水源涵養のために白旗山の森づくりを進めています。2022年にはグループ社員42名が、ミズナラの苗木200本を植林しました。

北海道e-水プロジェクト

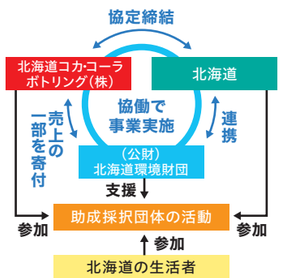
北海道の豊かな自然環境を道民自らが保全して未来へと引き継いでいくことを目的に、2010年に「北海道e-水プロジェクト」が立ち上がりました(北海道、公益財団法人北海道環境財団、当社の三者協働運営)。「い・ろ・は・す天然水」555㎖及びリニューアル後の540㎖の売上の一部を同財団に寄付して、それを財源に北海道各地で水辺の環境保全に取り組む多彩な団体を支援しています。2022年度には、約1,023万円を寄付しました。これまでの累計寄付金額は約1億5,290万円になります。毎年11月には、活動内容を広く発信する「北海道e-水フォーラム」を開催し、2022年は3年ぶりに対面での開催が実現しました。

北海道e-水プロジェクトへの支援(累計) 約1.53億円 延べ160団体

北海道e-水プロジェクト

北海道e-水プロジェクト 歴代支援団体所在地

※☆印は市町村単位



2022年度支援団体（順不同）

e-水コース（上限200万円）採択団体

- オホーツク魚類研究会（美幌町）
- 釧路自然保護協会（釧路市）
- 小松前川支流域環境保全ネットワーク（松前町）
- 認定NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク（豊富町）
- 特定非営利活動法人人まち育てI&I（札幌市）
- 深川ひきがえるバスターズ（深川市）

しずくコース（上限10万円）採択団体

- あさひかわサケの会（旭川市）
- 旭山自然調査隊（札幌市）
- 一般社団法人小樽セーリングクラブ（小樽市）
- 河川愛護団体リバーネット21ながぬま（長沼町）
- 北見エコスクールSDGs協議会（北見市）
- 黒松内ぶなの森自然学校運営協議会（黒松内町）
- こどもEcoくらぶ（一般社団法人はっぴー福祉会）（当別町）
- コドモリくらす（旭川市）
- 特定非営利活動法人沙流川愛クラブ（平取町）
- 渚滑川水系資源教育推進実行委員会（滝上町）
- 水車・アヤメ川自然公園を育てる市民の会（伊達市）
- 地域協働まちづくり会議高栄小校区きずな（北見市）
- 手稲さと川探検隊（札幌市）
- 安春川たんけんクラブ（札幌市）
- 山の水族館リニューアル10周年記念事業実行委員会（北見市）
- 両爬の生態系をかんガエル・札幌市南区チーム（札幌市）

●当社の「環境方針」についてはHPをご覧ください　https://www.hokkaido.ccbc.co.jp/environment/mind.html

当社の取り組み

スポーツと環境 ～スポーツの未来を守ろうin白旗山～

当社は2021年6月、北海道オール・オリンピアンズと連携協定を締結しました。北海道オール・オリンピアンズは、オリンピック・パラリンピックに出場した北海道出身者を中心にして、スポーツを通じた世界平和と、北海道のスポーツの振興に寄与することを目的に活動している団体です。

そして2022年10月、北海道オール・オリンピアンズ、札幌国際大学と当社による3者で、持続可能な社会の実現を目指した活動の一環として、スキー距離競技のメッカであり札幌オリンピック（1972年）のレガシーでもある白旗山での植樹活動と、講演イベントを開催しました。講演では、サラエボ五輪（1984年）スピードスケート500mに出場した鈴木靖氏が演壇に立ちました。

銭函海水浴場（小樽市）で清掃活動

2022年9月にコカ・コーラシステムが目指す「World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）」の実現に向けた活動の一環として、「国際海岸クリーンアップ（International Coastal Cleanup・ICC）」に参加。グループ社員73名が小樽市の銭函海水浴場で清掃活動を行い、約2時間の活動でプラスチック片や漁具、投棄されたBBQ用具などのゴミを回収しました。一見してゴミが少ないようにも思えた砂浜でしたが、実際に歩いてみると小さなプラスチック片が驚くほど大量にあり、参加者は、プラスチック製品のリサイクル推進活動の大切さを改めて実感しました。

CO_2削減に貢献

当社が販売する製品の約90%は、北海道内で製造されています。そのため道外から長距離を輸送した製品と比べて約60%（当社比）のCO_2削減に貢献しています。また「い・ろ・は・す 天然水」などの旗艦製品は、100%リサイクルPETボトルを使用しているので、石油から新規に製造されるプラスチックを使用した一般的なPETボトルと比べて、1本あたり約60%のCO_2排出量削減が可能になります。こうして身近な製品が地産地消とCO_2削減に貢献していることを知っていただくために、自動販売機や小売店で、積極的にPOPを掲示しています。

空容器自主回収テスト運用

当社では、自動販売機設置先のご協力を得ながら、空容器の自主回収専用ルートを作り、テスト運用しています。回収した容器は専門業者により適切に処理され、再生金属やボトルtoボトルの原料として活用されていきます。地産地消のモノづくりを原点に、製造から廃棄ボトルの回収までをひとつのサイクルでまわす取り組みです。